

TS（トータル・サティスファクション）を目指して M20

岡田武史さんに学ぶ「モラルの自然な定着」

校長室担当より

元サッカー日本代表監督の岡田武史さんのお話です。新チームに赴任直後の練習で、サッカーコートの4隅にコーンをおいて、コーンの周りを1周1分40秒で走るトレーニングをした時のこと。見ていると約3分の2の選手がコーンの少し内側を走っている状況があり、まじめにコーンの外側を走っている選手が小ばかにされている状況があったそうです。だからと言って、コーンの位置にコーチに立つということをしたのでは意味がなくなる（※つまりコーチがいなくなればまた内側を走るようになるからです）。こういうモラルの部分は、皆が自然にできるようにしなければならないと岡田さんは考え、見事一か月後には誰一人内側を走らなくなったそうです。どういう方法だったのでしょうか。

岡田さんは、ニューヨークの地下鉄の落書きをなくしたジュリアーニ市長が心理学者から学んだ「割れ窓理論」に基づいたアプローチを勧めておられます。各車両に警察官を乗せて落書きさせないようにしても、警察官がいなくなったら元に戻る。落書きが自然になくなるようになることこそがモラルの定着には必要と考えたジュリアーニ市長は「税金の無駄遣い」とまで言われながらも、繰り返し繰り返し落書きを消していました。そしてある時にやっと落書きが激減したというものです。結局、誰かが見張っていなくても人が自然にモラルやマナーを守ることができるようにするためには、罰則ではなく、できない日々が続いても愚直に伝え続けていくことが大切だということなのだと思います。

さらに岡田さんが選手に伝えるのは、のは、ほんのこういった小さなことをきちんとやることが勝負の際に運をつかむということだそうです。私自身もできることをその時々自分にできる力をもってやり続けること、言い換えると「これくらいはいいだろう」という自分の気持ちに向き合うことで、できないことがある瞬間に偶然できるという現象を引き寄せるということにうすうす気づき始めました。最近は「運」の研究が進んでいますが、こういった考え方があちこちで科学的にも統計的にも示されるようになっていきます。こういった姿をきちんと子どもたちに示せて、姿で伝えられる大人でありたいものです。私も自分に言い聞かせます。（令和7年6月6日）